令和４年度フロンティア・アドベンチャー

「やまなし少年海洋道中」事業報告

事業概要

新型コロナウイルス感染症拡大により２年間の中止を経て、３年ぶりの開催となったフロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」は、今年で３３回目を迎えました。With コロナで臨む初めての事業ということで、感染症対策をはじめ、これまでの事業より活動強度を抑える等の対策を講じての実施となりました。

令和４年８月１日から８月８日までの８日間、東京都八丈島においてキャンプ生活をしました。出発直前に感染症が再拡大する状況で、感染対策を施してはいるものの心配は尽きませんでしたが、参加者・指導者の日頃の感染症対策の徹底、研修期間における健康観察の徹底等もあり、感染者を出すことなく、予定どおり、無事全日程を終えることができました。

漁業体験、スノーケリング、八丈島の小中学生のとの交流、１泊２日で八丈島内を巡るチャレンジウォークなど、参加した中学生は、様々な体験活動を通して、多くのことを学び、これまで以上に大きく成長することができました。

出発の日（８月１日）

研修初日、山梨県立図書館多目的ホールにて出発式を行いました。７月初めに事前研修会を行ってから約１ヶ月が経過し、久しぶりの仲間との再開、そして、いよいよ親元を離れて旅立つということで、少し緊張した面持ちの参加者を迎えました。それでも、顔を合わせて話し出すと表情も和らぎ、これからへの期待に、心弾む様子が見えました。

参加者代表の誓いの言葉では、「八丈島で貴重な経験ができることに感謝し、７泊８日間の生活を通して、友情・奉仕・開拓・交流の精神を育みます。」「それぞれが、八丈島での体験に期待をもち、43 名の仲間と共に、たくましく成長して帰ってくることを誓います。」と宣言し、初日の良いスタートを切ることができました。バスに乗る前には、見送りに来てくださった多くの保護者の方々の前で、班ごとに意気込みを伝え、元気に「いってきます」と挨拶をして、バスで竹芝桟橋へ向かいました。竹芝では、係・班別の最終ミーティングを行い、夜の海に浮かぶ「橘丸」に乗船し、八丈を目指して出港しました。

八丈島到着、開村の日（８月２日）

約 10 時間の船旅。船酔いする参加者もいましたが、比較的穏やかな波に、晴天にも恵まれ、デッキに出るとキラキラ輝く海が広がっていました。水平線の先に何もなく、延々と海が続く景色は壮観でした。

八丈島へ到着して下船するとすぐに、八丈町教育委員会（以降、八丈教委）の皆さんが、横断幕やのぼり旗を持って、温かい笑顔で迎えてくださいました。日差しの強さを感じながら、山梨より発色の良い木々や山々の緑色、碧くきれいな海岸が見え、船旅の疲れも吹き飛ぶようでした。歓迎セレモニーを終えて朝食を食べ、暑いけれど気持ちの良い空の下を、みんなで垂戸ベースキャンプ地（以降ＢＣ）へ向かい歩きました。

ＢＣ到着後、全員でテント設営等を行いました。大学生ボランティアリーダー（以降ＶＬ）の指示を聞きながら、班ごとに割り当てられたエリアに、テント２張りと食事テントを、どの位置に、どんな向きで設置するか等、自分たちの今後の生活を考えて設営していきました。例年より班の人数が少ないため、一人一人の作業量が増し、たいへんだったと思いますが、暑い中、みんなで協力して最後までやりきれたことは、班内の結束を強めることにつながったと思います。

設営を終えた班からシャワーを浴びに行き、その後に開村式を行いました。各班、自分たちが八丈島でどんなことを目標に、協力して生活していくか、班長は、この事業の目標である「友情・奉仕・連帯・開拓・交流」に基づいて、班を代表して決意表明しました。参加者それぞれに士気を高める時間になりました。

開村式を終えて、暗くなってきた中で、初日の野外炊事に移りました。事前研修では野外炊事実習を行わなかったので、班で行う初めての野外炊事でした。今年は例年の手作りかまどに代わり、Ｕ字溝を用いたかまどで火を起こし、親子丼とサラダを作りました。火起こしに苦戦したり食材準備に時間がかかったり、食べる頃には辺りは真っ暗でしたが、苦労した分おいしく、みんなが笑顔の楽しい夕食になりました。ヘッドライトを点しながらの片付けも、見えない不便さを、互いに明かりを当て合い、協力してクリアしていました。

指導者側の話ですが、３年ぶりの開催で、これまで使っていた発電機が動かず、初日は本部テントに大きな照明がつけられない事態に。八丈教委の方々の協力もいただきましたが、この日は結局どうにもならず、翌日、新しい発電機をお貸しいただき、難を逃れました。研修活動プログラムへのサポートに、毎日の氷の準備など、八丈町教育委員会の方々には、本当に多大なる御支援をいただきました。この後の日程が無事終えられたのも、手厚い御支援のお陰です。

海洋の日（８月３日）　　漁業体験活動、スノーケリング

研修３日目は、島の醍醐味でもある海洋体験の日。

この日も晴天に恵まれ、絶好の海日和の中、まず、神湊漁港に向かい、漁船のクルージング体験をしました。初めて漁船に乗る参加者がほとんどだったと思いますが、海風を浴びながら、間近に波を感じて、広い海を駆け抜けるのは最高の体験だったと思います。漁船を降りると、漁師さんがさばいていたイカのわたを参加者にくれ、それを海に投げ入れると、ウミガメが集まってきて食べる様子が見られました。普段ちょっと強面の漁師さんが、笑顔で参加者と関わってくれる様子に、見ている指導者も温かい気持ちになりました。地元の方とのこうした交流も、この事業の醍醐味だと思います。

クルージングを終えて、午後のスノーケリング実施地である底土海岸へ向かいました。当初予定していた「くさや工場見学・体験」が、漁の関係で実施できなかったため、お世話になる八丈島のためになることをと、みんなでゴミ拾いをしながら歩きました。暑い中でしたが、みんな本当に細かなところまでよく見て、熱心にゴミを拾いに励みました。

底土海岸に着くと、漁協女性部の皆さん手作りの「島ずし」弁当が用意されていました。八丈教委の方々から冷たい麦茶とスイカもいただき、お腹いっぱい、おいしい昼食をいただきました。

そして、初めてのスノーケリング体験。今年度は八丈町のフリーダイビングチーム Team BlueArch（ブルーアーチ）の方々に御指導いただきました。１ヶ月前の事前研修会の復習から始め、八丈島のきれいな海で気持ちよく泳ぎました。安全確保のため、例年より活動エリアを絞っての実施でしたが、ブルーアーチの皆さんやスノーケリングに長けた八丈教委はじめ町の協力者の方々が、各班に２名以上付いてくださる手厚いサポートで、参加者は想定以上に上達し、２回目は初めからもっと泳げるだろうと、ブルーアーチの皆さんも太鼓判を押してくださいました。体験を通して多くの方との交流を楽しみ、八丈島の透明度の高い海に魅せられ、充実した時間を過ごしました。

八丈チャレンジウォーク（８月４、５日）

海洋道中・現地研修のメインイベントとも言える、１泊２日の八丈島内巡り。例年「サバイバル踏破」として島を１周していたプログラムですが、コロナ禍で参加者の運動量が落ちていること等を考慮し、今年度は時間や距離を短縮した「八丈チャレンジウォーク」として実施しました。

前日の夜、班ごとに荷物準備、コース確認等、最終ミーティングを行い、最初の班は、オレンジ色の朝日を浴びて、班の仲間の誕生日をみんなで祝ってから、気持ちよく出発していきました。その後も、各班、それぞれの計画にそって出発しました。全班を見送った指導者は、この日から天候が崩れる予報であったため、テントが浸水しないように設置確認・調整をしてから、ウォークの見回りに向かいました。

午前中は日差しも強く、途中で具合が悪くなる参加者がいないか心配しましたが、ＶＬ指導のもと、うまく休憩を挟みながら、順調に歩を進めました。到着が少し遅れる班もありましたが、暑さや足の痛みを乗り越えて、どの班もビバーク地へ辿り着き、各地の温泉で疲れを癒しました。みんなで夕食を食べ、これまでで一番話をして過ごした夜は、参加者の絆を深めたようです。

この夜は、八丈町の方も驚くような雷雨に見舞われました。各班のビバーク地は雨風がしのげる場所ではありましたが、稲光に大きな雷鳴は怖かったと思います。翌朝も、４時頃起きると雷鳴が聞こえ、朝の出発予定を遅らせることにしました。出発時も小雨の降るあいにくの天気でしたが、前日の暑さと打って変わって、参加者にとっては歩きやすく、恵みの雨だったかもしれません。ぐんぐん進んで早く到着してしまいそうな班も出てきましたが、余裕がある班は、「できることを考えて戻っておいで」という指示に、それぞれに判断し、ゴミ拾いしながら、予定地以外を巡りながら、帰ってきました。

いよいよ各班の到着。一緒にゴールテープを切る時には、どの班も、みんながやりきった笑顔で、出発前より互いの顔を見合っている様子が見られました。先に到着した班が後続の班を拍手で迎える様子も微笑ましかったです。

その後の環境教育プログラムでは、「八丈島に残したいもの」「そのために自分にできること」等について、意見を出し合い発表しました。

夕食のお好み焼きとスモアを楽しんだ後は、「ウォーク報告会」。ファイヤーの前で各班それぞれに、感じたこと、印象に残ったこと、大変だったこと、様々話しました。ウォーク中、八丈教委はじめ、八丈島内の多くの方々に、声援をいただき、スイカやアイス、たくさんの差し入れをいただきました。参加者の言葉には、八丈の方々の優しさに対する感謝の気持ちが溢れていました。

仲間と協力して歩いた長い道のり、苦労を乗り越える達成感、互いを思いやり支え合うことの大切さ、人の優しさの有り難さ、多くのことを感じて過ごした２日間でした。

交流の日（８月６日）
八丈町小中学生との八丈富士登山、２度目のスノーケリング

この日は朝から八丈町小中学生と交流しました。チャレンジウォークの翌日ですが、八丈町の小中学生とバディを組み、八丈島の最高峰（標高 854m）、富士山に似た、八丈富士へ登りました。登山と言っても 1280 段の階段を上ります。でも、これが思ったよりも大変で、交流会とうたいながら、思うように話せなかった参加者も少なくなかったようです。曇っていて期待した絶景は拝めず…これも疲れが増した原因かもしれません。

ところが、山頂はみんなの笑顔が輝く場所になりました。八丈富士のてっぺんで、八丈の子たちと一緒に、この日が誕生日の参加者を祝いました。みんなで一緒にサプライズ、山頂に着いた喜びと併せて、楽しい空気が流れました。短い時間の交流でしたが、話すだけでなく体験を共有して通じ合うものが生まれ、後の山梨での再会でも、すぐに仲良くやりとりする様子が見られました。

午後は２度目のスノーケリングに、底土海岸へ向かいました。雨が降ったり止んだりの曇り空は変わりませんでしたが、今回は堤防からの飛び込みの時間も加わり、スノーケリングで海の中を楽しむのとはまた違った、スリルも味わえる時間でした。頭からきれいに入水する子、一回転して飛び込む子、飛距離を競って飛び込む子たちもいれば、全員で順番に飛び込む班、手を繋いで一斉に飛び込む班もありました。八丈の海を満喫して、最後の海洋体験を終えました。

この日の夕食はバイキング形式でした。キーマカレーにてりやきチキン、塩豚カルビ、五目ちらし、サラダパスタ、フルーチェ…、各班違う料理を作って、大きな円を作って座り、みんなで味わいつくしました。

その後は、キャンプファイヤーを囲んで、レク係によるレクリエーションタイム。テンションを上げ続ける「モッツァレラチーズゲーム」は、予想以上の盛り上がりをみせました。大声を出したり、表現を加えたり、恥ずかしがりながらも、自分を解放して楽しむ参加者の様子に、ここまで一緒に過ごしてきた時間と、活動での関わりの深さを感じました。

そして、最後のＢＣでの夜、みんなで草の上に寝転んで、星空観察をしました。思わず眠ってしまいそうになる気持ちよさでしたが、見上げた空には満天の星空。星の光を妨げる明かりのない場所だからこそ、小さい星までたくさん見えて、とても素敵な時間でした。八丈初日の夜も、降り注ぐような星空に驚いたのを思い出します。

閉村の日（８月７日）
ＢＣ撤収、ふるさとタイム、さよならレセプション

午前中にＢＣ地の撤収作業を行いました。「来た時よりもきれいに」を目指して、テントブレイクにかまどの片付け、ゴミ拾い、そして自分たちの荷物の整理にと、強い日差しの下、みんなで声をかけ合いながら作業を進めました。

午後は２班ずつに分かれ、八丈町のお土産屋さんで買い物をするふるさとタイム、ふれあいの湯での入浴タイムに交互に向かいました。

ＢＣ撤収後のため、夕方からは三根小学校の体育館をお借りして活動しました。戻った班から、所属校の校長先生へ葉書を書きました。海洋道中で感じたこと、学んだこと、自分にしか書けないことを伝えようと、みんな時間をかけて書き上げていました。

この日のメインイベントである「さよならレセプション」では、第一部で、研修期間毎日お世話になった八丈教委の方を囲んでの食事会、そして、島の伝統である八丈太鼓の演奏を鑑賞しました。第二部では、班ごとに八丈での思い出を振り返るスタンツ披露があり、どの班も自分たちにとって印象深い瞬間を表現してくれました。レセプションの最後には、期間中、八丈町でたくさんいただいたスイカで、じゃんけん勝者によるスイカ割りをしました。周りを囲む仲間から、方向の指示が飛び交い、最後は大きな拍手と笑い声が上がりました。

離島の日（８月８日）

とうとう八丈島とのお別れの日。最後の夜を過ごした三根小学校では、感謝の気持ちを込めて念入りに清掃をしました。その後、底土港で離島式を行い、参加者代表から、現地研修での感想、八丈教委の方々への心からの感謝の気持ちを伝えました。八丈教委の方からは、参加者・指導者全員のキャンプネームが書かれた、島の特産・パッションフルーツをいただきました。最後、みんなでそれを片手に、八丈富士と海をバックに写真を撮りました。堤防の先まで手を振りずっと見送ってくれる八丈町の方々との別れを惜しみながら、島を後にしました。

船内では、竹芝桟橋が近づく頃、最後の班別ミーティングを行いました。仲間やＶＬ、そして指導者、それぞれの思いを受け止め合い、じっくり八丈島での８日間を振り返りました。

竹芝桟橋に到着後には「解団式」を行い、この充実した８日間、参加者・指導者それぞれに互いの成長や変化を感じながら、第３３回「やまなし少年海洋道中」の最後を迎えました。

こうして、今年度の「でっかい体験」も無事に幕を閉じました。